

異国文化の薫る街「築地風景」展

会期:2016年10月 1日(土)~ 12月25日(日)

会場:< GAS MUSEUM がす資料館>ガス灯館2階「ギャラリー」

ごあいさつ

GAS MUSEUM がす資料館では、ギャラリー第80回企画展として、2016年 10月 1日(土)から12月25日(日)までの期間、『異国文化の薫る街「築地風景」』展を開催します。

安政5年(1858)の日米修好通商条約締結により、幕府は江戸に外国人の居住と貿易のための居留地の設置を認めますが、築地に居留地が誕生したのは、明治元年(1868)のことでした。

貿易の事務を担当する運上所(うんじょうしょ)や、外国人の宿泊施設として築地ホテルが設けられましたが、貿易のための商館は少なく、この地には外国公館のほか、宣教師や医師、教師などの知識人が集まりました。教会や学校が数多く設立され、明治32年(1899)の築地居留地廃止後も関東大震災まで、築地は永く外国との文化と交流の窓口でした。

展示会では、明治はじめの東京の新名所となった築地の風景を、築地居留地を代表する建物であった築地ホテルや東京運上所、周辺の新名所でもある海軍兵学寮や新富座などが描かれた作品や資料より紹介します。

GAS MUSEUM がす資料館

■展示作品一覧

【展示解説】

学芸員 高橋 豊

築地居留地

安政5年(1858)の日米修好通商条約を始めとした、総称「安政五ヶ国条約」が結ばれると、国内七箇所へ外国人が居住するための居留地を認めました。

明治元年11月19日(新暦:1869年1月1日)に開設された築地居留地は、他の横浜、長崎、函館、神戸、新潟、大阪(開市場から開港場に改められる)は開港場であったのに対して、築地は開市場として開設されました。

明治5年(1872)に新橋・横浜間に鉄道が開通すると、貿易に携わる多くの外国人は横浜に主軸を置き、必要なときは鉄道を利用して東京で活動することが多くなり、一方築地居留地には、教会や学校、病院、外国公使館が設けられ、文化や教育の発信地となりました。明治32年(1899)に日米通商航海条約が発行されると、日米修好通商条約を始めとした「安政五ヶ国条約」は全て失効し、不平等条約(治外法権、関税自主権放棄など)が改正されると居留地は廃止されました。

居留地が廃止されて、明石町と名前が変わっても、関東大震災の被害を受けるまで街並みに大きな変化はありませんでした。



1) 東京府鉄砲洲異人館之図

歌川広重(三代) 明治2年(1869)

2) 東京大日本名勝之内 築地鉄砲洲海岸

勝山繁太郎 明治24年(1891)



3) 東京大日本名勝之内 築地居留地近海之景

勝山英三郎 明治24年(1891)

4) 東京滑稽名所 築地異人館

歌川広重(三代) 明治14年(1881)

5) 築地居留地之図

作者不詳 明治30年(1897)

開港場と開市場

築地居留地は、ほかの居留地が開港場(かいこうじょう)であるのに対し、開市場(かいしじょう)として設けられました。

開港場:埠頭や税関など、貿易に関連する施設が整備される。外国人は永続して居留地に留まれる。

開市場:貿易に関連する施設は、近くの開港場(築地であれば、横浜)を利用し、外国人は一時的な滞在が認められる。

居留地は、「官有地を競売により外国人に貸し出した地域」(狭義の居留地)(現在の明石町あたり)のほか、「日本人の所有する建物を借用して居住できる地域」(相対借り地域:別称、雑居地)が居留地の周りに設け

られ、築地では北側(現在の新富・入船・湊あたり)と、南側(現在の築地6・7丁目あたり)の地域にありました。

海軍兵学寮

元は幕府が安政2年(1855)に、海軍士官養成のため設立した、長崎海軍伝習所に遡ります。

明治4年(1871)に建てられた建物は、築地ホテルと同様、なまこ壁で覆われ、正面中央2階部分はテラスとなっていました。

明治9年(1876)に海軍兵学校と名を改め、その後明治22年(1889)に広島江田島へ移転しました。

明治10年(1877)には建物前で気球の実演実験が行われ、気球に詰めるガスは、芝金杉橋のガス工場からパイプで送られました。

この実験風景は人々の注目を集め、さまざまな錦絵に描かれました。

【なまこ壁】

壁を平瓦で覆い、継ぎ目の漆喰をカマボコ上に盛り上げた工法。



6) 築地海軍省於 練練場風船御試之図

歌川広重(三代) 明治10年(1877)

7) 東京築地海軍省軽気球試験並ニ從西洋館眺望図

歌川芳虎 年代不詳

8) 亜墨利加国

歌川芳虎 慶応3年(1867)



9) 東京新開名勝図会 築地海軍省

歌川芳虎 明治12年(1879)

10) 東京名所三十六戯撰 つきし海軍所

昇斎一景 明治4年(1871)

新富座

かつてこの地には、外国人居留地に集まる人々を当て込んで「新島原」という歓楽街が作られましたが、期待がはずれて明治4年(1871)に廃止されました。

翌年の銀座大火で焼け、復興の中、浅草より守田座がこの地に芝居小屋を構え、その後町名より新富座と改称しますが、明治9年(1876)に火災で焼失してしまいます。

明治11年(1878)に再建するときは、イス席を設けた他、劇場内にガス燈が設置され、夜間興行も可能となりました。また劇中でガス燈が効果的に使われた作品も上演されました。

開業式では入口に「新富座」の文字を花ガスで灯し、政府高官や外国大使を招待して海軍軍楽隊の演奏が花を添えました。

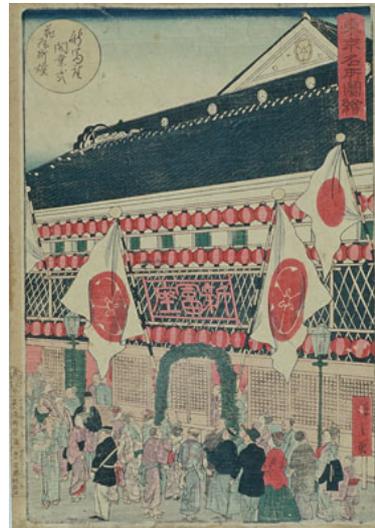


11) 東京新富座真図

安達吟光 明治17年(1884)

12) 新富座本普請落成夜劇場看客群集図

歌川国政(四代) 明治11年(1878)



13) 東京名所図絵 新富座開業式花瓦斯燈

歌川広重(三代) 明治11年(1878)

14) 古今東京名所 府下第一の劇場新富座

歌川広重(三代) 年代不詳

15) 東京開華名所図絵之内 新富座劇場の図

歌川広重(三代) 年代不詳

築地ホテル館

築地ホテル館は築地居留地開設に備えて、外国人専用の宿泊施設として幕府により計画され、基本設計はブリッジエンスが行い、清水喜助が建設を請負ました。英名では「江戸ホテル(Yedo Hotel)」と呼ばれた建物は、鐘楼が掲げられ、ベランダの付いた木造2階

立ての、なまこ壁仕上げの建物で、内部には家具や暖炉を備えていました。

海側には東屋を備えた庭園があり、部屋の配置を描いた錦絵はあるものの、玄関やトイレ、調理施設など、内部構造の多くは不明です。運営に携わった清水喜助は明治3年(1870)にはホテルを手放し、明治5年(1872)には海軍の所有する建物となりました。

しかし一ヶ月あまり後に起きた銀座大火で、周辺の建物と共にかつての築地ホテルは焼け落ち、姿を消してしまいました。

16) 東京築地ホテル館表掛之図

歌川芳虎 明治3年(1870)



17) 東都築地保互留館海岸庭前之図

歌川国輝(二代) 明治元年(1868)

18) 東京築地鉄砲洲景

歌川国輝(二代) 明治2年(1869)

19) 東京自慢名勝八景 ホテル館の晩鐘

歌川広重(三代) 明治4年(1871)

20) 東京三十六景 築地ホテル館

昇斎一景 明治4年(1871)

21) 築地ホテル図

作者不詳 年代不詳

22) 東京名勝図会 ホテル館庭上の図

歌川広重(三代) 明治元年(1868)

23) 東京名勝図会 築地ホテル館の図

歌川広重(三代) 明治元年(1868)

24) 東京名勝図会 築地ホテル館

歌川広重(三代) 明治元年(1868)

運上所(うんじょうしょ)

明治元年(1868)築地の開市にあわせ、準備のために設けられたのが外国事務局(別称:鉄砲洲役所)になります。

開市後の同年12月には東京運上所と改称して、居留地の事務を担当する施設となり、その内容は税関の役割の他、居留地の業務一切を取り扱いました。

明治2年(1869)には横浜との間を結ぶ築地伝信局が設けられ、電信事業誕生の地となりますが、明治6年(1873)には東京税関と改称され、翌年には横浜税関の出張所となりました。

一方居留地の管理業務や訴訟関係の業務は運上所の手を離れ、東京府や司法省の管轄に置かれることとなりました。

運上所の跡地には現在料亭が建ち、傍らには運上所の記念碑とともに、「電信創業の地」の碑も置かれています。

25) 東京名勝図会 鉄砲洲明石ばし

歌川広重(三代) 明治元年(1868)



26) 東都名所 鉄砲洲明石橋之景

歌川広重(三代) 年代不詳

27) 東京三十六景 築地明石ばし

昇斎一景 明治4年(1871)

築地本願寺

かつては「宗教法人 浄土真宗本願寺派本願寺築地別院」が正式名称でしたが、平成24年(2012)「築地本願寺」に改称しました。

元和3年(1617)に、現在の日本橋横山町に建立されますが、明暦3年(1657)の「明暦の大火」で被害を受けると、新たに造成された築地の地に移りました。当時の本堂は西南に向いており、その屋根は海上からの道しるべとなっていました。

しかし大正12年(1923)の関東大震災からの再建では、本堂は西を向き、その設計は伊東忠太博士による、インド様式の石造りの外観の建物となりました。作品は本堂や橋の位置などから、新湊橋附近より新栄橋の向こうに本堂を眺めた、夜の風景が描かれています。

28) 東京真画名所図解 築地門跡ノ遠景

井上安治 明治14-22年(1881-89)

料亭

明治4年(1871)に廃止された「新島原」という歓楽街は、当てがはずれてしまいましたが、守田座(後の新富座)が跡地の新富町に移ってくると、芝居小屋向けのお客さんの需要が生まれ、新富町には芸妓が増えました。それに合わせ料亭も誕生し、展示作品にある「躍金樓」(てつきんろう)は、明治6年(1873)に創業し、現在でも新富の街で、のれんを掲げています。



29) 皇都会席別品競 新富町躍金樓

月岡芳年 明治11年(1878)

30) 皇都会席別品競 築地隅屋
月岡芳年 明治11年(1878)
訓盲院(くんもういん)



31) 東京真画名所図解 築地海軍省
井上安治 明治14~22年(1881~89)

ホテル・メトロポール

明治23年(1890)5月に、赤坂に移転したアメリカ公使館の建物と跡地を買収、改修して築地居留地に誕生したホテルです。

当初は横浜のクラブ・ホテル東京支店として営業を開始しますが、明治31年(1898)には独立してホテル・メトロポールとなりました。

経営は順調でしたが、明治32年(1899)に居留地が撤廃されて外国人の国内移動に制限がなくなると、外国人利用者は減少してゆきました。

同じ頃、内山下町で営業していた帝国ホテルとの合併話が持ち上がり、明治40年(1907)に株式会社帝国ホテルが誕生し、その築地支店として再出発しました。しかし宿泊客は年々減少して、明治43年(1910)に廃業が決まりました。

現在跡地には聖路加ガーデンがそびえています。



32) ホテルメトロポール
新撰東京名所図会 第三十編
明治34年(1901)

33) 立教中学校
新撰東京名所図会 第三十編
明治34年(1901)

34) 工手学校
新撰東京名所図会 第三十編
明治34年(1901)

「東京新繁昌記」について

本書は全六編六冊。

六編とも各半紙本一冊の形で、銀座3丁目の山城屋稲田誠吉(奎章閣)より逐次刊行されました。

奥付より初版は明治7年(1874)4月刊、以後、6、8、10、12月と五編までは、同年内二ヶ月間隔で刊行されましたが、六編のみ約二年後の明治9年(1876)4月に同じ出版元より刊行されて一応完結しました。

その後、明治14年(1881)6月に東京の自足軒蔵版として「東京新繁昌記後編」の第一編が刊行されますが、続きは刊行されませんでした。

取り上げられた項目としては、「学校」「鉄道」「博覧会」「瓦斯会社」「女学校」などが取り上げられています。

35) 東京新繁昌記 二編 築地異人館
明治7年(1874)

36) 東京新繁昌記 五編 築地電信局
明治7年(1874)

37) 東京大小区分絵図 第三号
松村 宏 明治7年(1874)

38) 京橋区全図
田山宋堯 明治38年(1905)

おもな参考文献

築地外国人居留地

川崎晴朗 (株) 雄松堂出版 2002年

東京築地居留地百話 清水正雄 (株) 冬青社 2007年

東京はじめて物語 銀座・築地・明石町

清水正雄 (株) 六花社 1998年

都市紀要 四 築地居留地 東京都情報連絡室 1991年

図録「東京にあった外国人居留地」

中央区立郷土天文館 2010年

「近代文化の原点 築地居留地」VOL.1~4

築地居留地研究会 2000~2011年

GAS MUSEUM がす資料館 企画展ご案内郵送申込について

ご来館ありがとうございます。これから3ヶ月ごとに開催されます、「GAS MUSEUMがす資料館 企画展」のご案内はがきの郵送をご希望の方は、官製ハガキに ①氏名 ②連絡先住所 ③年齢 ④電話番号 ⑤感想・意見 ⑥今後希望する企画展、をご記入の上、下記の住所までお申し込みください。

次回より約1年間、毎企画展ごとにご案内ハガキを無料で郵送します。

(ハガキ持参で来館された方は、そのまま継続して登録されます)

〒187-0001 東京都小平市大沼町4-31-25 GAS MUSEUMがす資料館「ご案内ハガキ」係

TEL(042)342-1715 FAX(042)342-8057

《当館のお客様情報(個人情報)は、当館イベント運営に必要な業務を含め、当館に関連する企画、及びサービスのご案内のために使用いたします。》